

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 弐番館 )

事業所番号	0671700284		
法人名	医療法人 敬愛会		
事業所名	グループホームさくらんぼ		
所在地	山形県東根市大字野田1924番地		
自己評価作成日	令和 3年 8月 14日	開設年月日	平成 16年 4月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根ざした愛されるグループホームを目指し「大切な人に笑顔と安らぎを」～その人らしい生き活きとした暮らしを支えます～の法人の理念のもと、一人ひとりの能力・特性を見極めて残存能力を生かした生活支援、ご希望があればお看取りまで支え、最期まで自分らしく過ごせる第二の我が家となるよう心がけています。また、入居者様、家族様とのコミュニケーションを多くとるよう心がけ、思いに寄り添い、信頼関係を大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 9月 28日	評価結果決定日	令和 3年 10月 14日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を基本にグループホームとしての役割を反映した独自の理念がある。各ユニットの玄関と事務所に掲示のほか職員一人一人が常に身に付けているネームプレートに入れて持ち歩き、理念に対する意識を高めるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接の小学校から案内をいただき運動会などを見学したり、地区行事に参加していた。また、施設行事の夏祭りは地区の方を招待したり交流を図っていたが、現在はコロナ禍のため地域との交流が図れていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行い、認知症に対する理解を深めていただけようとしていたが、現在は実習生のみ受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍において、密回避の観点から運営推進会議の委員の方全員へ書面にて報告行っている。質問等あった際はその都度対応し、次回の報告の際書面にて質疑応答を入れるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に定期的に情報交換を行っていたが、現在は書面にて報告する際に担当の方と必ず顔を合わせるようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	夜間以外は玄関のカギを常に開放しており、自由に外出できるようにしている。また、身体拘束についての研修を開催したり、委員会を設置し身体拘束についての正しい理解に努めている。束縛のないケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての正しい理解を学ぶため、研修会の開催や、委員会活動を通じて定期的に話し合いの機会を持ち虐待がないよう啓蒙に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については理解不足な所があるため、継続的な学習する機会を持ち、理解をしていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間を取り説明を行うようにし、随時質問等がないか確認しながら契約の締結を行っている。解約の際も同様に十分に話をし同意の上で行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口や各ユニットの玄関に意見箱を設置している。その他にも随時意見や要望を伺っている。年1回入居者様と家族様にアンケート実施し、頂いた意見を職員全員が共有し、問題点等は解決できるよう検討を行っている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回全体会議とユニット会を行い、職員の意見が反映する体制を作り話し合いの場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所全体で働きやすい職場環境の構築に取り組んでいる。「山形いきいき子育て応援企業」の認定と、子育てサポート企画として「プラチナくるみんマーク」を取得している。また研修会の参加費や資格取得費用を事業所で一部負担している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の全体研修や、部門ごとに年間計画をたて、研修会を設けている。また外部の研修会に参加しやすいよう勤務の配慮もしている。採用時には前年度中途採用の職員も含め新人研修を行い理解を深めてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協会に加入し、定期的な研修会に参加し、他事業所の方と交流を図りながら意見交換を行っている。管理者は、他事業所の運営推進会議委員になっており、会議に参加や交流を行いサービスの質の向上に努めている。			
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に面談をし、本人様・家族様の話をよく傾聴し、不安を解消して頂いている。安心してサービスを利用して頂けるように、信頼関係の構築に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	必要に応じて、訪問や面談を行っている。ご家族の話をよく傾聴し、不安を解消し安心して頂けるよう関係性作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人様や家族様の状況を把握し、意向を確認しながら適切な支援が提供できるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、生活の知恵を教えてください、出来ることや得意な事は手伝っていただき家族のようにお互い支え合えるような関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院の付き添いや、馴染みの理容室への付き添いなど、在宅で過ごされていた関係性が途切れぬよう支援している。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れぬよう、支援に努めている	馴染みの方との継続的な交流が持てるよう、家族様の協力を得て外出したり、面会や連絡を取り持つなど支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を把握し、馴染の関係性が出来ている方を同席にしたり、入居者様同士の関わりあい出来る様、スタッフが仲介に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な事情により契約が終了したとしても、ご家族より相談等あった場合は、必要に応じて対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の関わりの中で、表情の変化や行動に気を配り、普段の会話から本人様の意向を把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅で使用していた布団・枕や思い出の物等を持参して頂き、使い慣れたものを使用できるよう環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の好きなもの・好きな事、生活ペースの把握に努め、一人ひとりに合った生活が送れるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の状態変化等あった場合は、その都度カンファレンスを行う事で家族様とも情報共有を行い、より良いケアが提供出来るように努めている。必要に応じてその内容を反映させ、3ヵ月ごとの介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や状況を介護記録として残し、職員間の情報共有を図っている。又、それに合わせて課題についての実践や計画の見直しなど随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>日常生活支援として入居者様本人の思いをくみ取りながら、出来る範囲での楽しみや喜びが持てる生活が送れるよう食事や活動面で支援している。</p>		
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医の診察が継続できるよう家族様と協力しながら通院介助を行っている。通院が困難な方へは往診していただき、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>入居者様の異変に気付いたときは、医療連携をとっている隣接した施設看護師に連絡し、指示や処置してもらえようサポート体制をとっている。</p>		
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者様が入院した際は、医療機関に対し必要な情報を提供し、連携を取っている。その後も適宜に連絡を取り、退院後の継続的な支援に繋げていけるよう関係づくりを行っている。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化、看取り指針を策定しており、状況変化があるごとにその都度ご家族様へは希望を確認している。家族様の希望にそったケアが出来るよう医療関係者と連携し支援している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急マニュアルを作成しており、各自で確認するだけでなく、研修会を行い情報共有している。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練を行っており、コロナ禍前は地区区長や消防団の方も参加していただいていた。避難方法だけでなく、通報訓練や放水訓練、設備説明も毎回行っている。</p>			
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者様一人ひとりの思いを大事にして、主体的に過ごして頂いている。スタッフは入居者様に対して敬う気持ちを忘れず不快な気持ちにならないようにスタッフ間で注意をはらっている。</p>			
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>普段から会話を多くとるよう心がけており、入居者様個々の思いや、希望を聞きながら個別に対応している。</p>			
37		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>スタッフの都合を押し付けることなく、入居者様主体の考えのもと、一人ひとりのペースを大切にしながら過ごせるよう支援している。</p>			
38		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>入浴の際は本人様と一緒に着替えを用意し好みの服を選んでいる。整容する際は鏡の前で自分で行い自分の姿を見る事で、髪が伸びたなどの訴え時は床屋を予約したり、身だしなみにも気を配っている。</p>			
39	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>コロナ禍のため外部宅配を使用しているが、時折希望献立を取り入れたり、畑の野菜を工夫し食事に取り入れている。出来る範囲での調理や盛りつけを協力し合いながら行っている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食事量と水分量を記録し、毎月体重測定を行い栄養士よりBMI値を出して頂き栄養管理している。また、食材の工夫のアドバイスもいただいている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。必要な方には職員が介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間の排泄チェック表に記録することにより、状態を観察することが出来、習慣やパターンを把握し、トイレでの排泄が出来るよう支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による体調への影響を理解し、水分摂取や運動により自然排便が出来る様支援している。必要に応じて、医師より便秘薬を処方して頂いている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日などは決めず、入居者様の希望や体調に合わせて一人ずつゆったりとした空間で入浴を行っている。汚染時などは随時シャワー浴・清拭、着替えを行っている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握しながら、主に食後、入浴後や傾眠が見られたときに、本人に声がけをし、意思を尊重したうえで休息を取って頂いている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報は専用のファイルに保管し、職員間で情報共有出来るようにしている。また症状に変化があった場合は、ご家族様への連絡と主治医への連絡相談を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ゴミ捨て・おやつ作り・洗濯物たたみ・皿拭き・カラオケ等、得意なことや好きな事をして頂くことにより、生きがいや喜びを感じられるよう支援している。</p>			
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>季節に合わせたドライブや天気の良い日は散歩に行く等している。又、外のテラスでお茶会をしたり、夏の催しものとして戸外でスイカ割りをするなど、定期的に気分転換を図っている。</p>			
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>コロナ禍以前は、個人の買い物がある際は商品選びや会計も付き添いのもと行っていた。</p>			
50		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人様所持の携帯電話で居室にて自由に電話をして頂いたり、ご家族様に業務連絡をした際は、本人様とも話して頂けるよう支援している。又、本人様が面会を希望している際は、その旨を家族様に伝え機会を設けている。</p>			
51	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節を感じてもらえるよう季節にそった飾り付けをレクを通して行っている。また入浴時に菖蒲やゆずなど季節の湯を楽しんでもらったり、温度・湿度にも気を配り快適に過ごせるよう配慮している。</p>			
52		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ダイルームや和室だけでなく、廊下のベンチ等で好きな時に好きな場所で過ごせるよう配慮している。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物をご家族様に持ってきて頂いたり、配置する場所を工夫し、過ごしやすい空間づくりに努めている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やデイルームのスペースを広くし、車椅子の自操やシルバーカーでの移動の際に妨げにならないよう配慮している。 又、トイレの場所の表記も見やすいよう字を大きくするなど工夫を行っている。		